

衆議院厚生労働委員会ニュース

平成 23.7.27 第 177 回国会第 23 号

7月27日(水) 第23回の委員会が開かれました。

1 厚生労働関係の基本施策に関する件(放射線の健康への影響)

・参考人から意見を聴取し、質疑を行いました。

(参考人) 独立行政法人放射線医学総合研究所理事

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会放射性物質対策部会委員

明石真言君

日本学会議副会長

東京大学名誉教授

唐木英明君

長崎大学名誉教授

長瀧重信君

名古屋大学名誉教授

沢田昭二君

東京大学先端科学技術研究センター教授

東京大学アイソトープ総合センター長

児玉龍彦君

京都大学原子炉実験所助教

今中哲二君

(質疑者及び主な質疑内容)

山口和之君(民主)

- ・低レベルの放射線は有益であるという「ホルミシス効果」に対する評価について明石参考人、児玉参考人及び今中参考人の見解を伺いたい。
- ・避難区域に住民が戻ることが可能となる条件について児玉参考人、今中参考人及び唐木参考人の見解を伺いたい。
- ・福島第一原子力発電所の事故に対しては国内外の英知を結集して対応すべきだと考えるが長瀧参考人の見解を伺いたい。

吉野正芳君(自民)

- ・放射線による健康被害に強い不安を感じている母親の不安を取り除くにはどうすればよいのか、明石参考人に伺いたい。
- ・福島県民に対する健康調査として3月11日から25日にどこにいたかアンケートによる基本調査が行われているが、4か月も前の記憶であり、被曝量を適切に判断できるのか。また、基本調査と詳細調査との関係について明石参考人に伺いたい。
- ・賞味期限が1日過ぎただけで廃棄してしまうなど基準に敏感である日本に対して、「規制値は安全と危険の境ではない」との説明をどうすれば理解してもらえるのか唐木参考人の見解を伺いたい。

坂口力君(公明)

- ・国内の食品の安全対策のための施設や人員等の体制は不

十分であるか、また、他分野から人員を連れてくることは可能か唐木参考人の見解を伺いたい。

- ・福島第一原子力発電所の事故について、チェルノブイリ原子力発電所の事故を踏まえた指摘があれば伺いたい。また、晩発性障害に対する見解について、長瀧参考人に伺いたい。
- ・放射線の影響について事故の中心地からの距離だけを問題にするのではなく、風向きや雨等の要素も考慮すべきだと考えるが沢田参考人の見解を伺いたい。

高橋千鶴子君(共産)

- ・生涯にわたる累積放射線量の限度を100ミリシーベルトとする食品安全委員会の評価報告書案をどのように評価し生かしていくか明石参考人及び唐木参考人に伺いたい。
- ・今回の福島第一原子力発電所事故に対応するため、広島・長崎の原爆被害にもっと学ぶべきであると考えますが長瀧参考人及び沢田参考人の見解を伺いたい。
- ・欧州放射線リスク委員会レスボス宣言の意義について沢田参考人の見解を伺いたい。

阿部知子君(社民)

- ・福島第一原子力発電所事故の安全な収束に向けて、現場で作業する労働者にとって現在最も大切なことは何であり、国会は何をすべきか明石参考人及び今中参考人に伺いたい。
- ・食品の放射能汚染について、出荷段階ではなく消費に近い段階で放射能検査をする体制を整えることが重要と考

えるが唐木参考人及び児玉参考人の見解を伺いたい。

- ・全国にあるアイソトープ総合センターに放射性物質の除染活動に当たり活躍してもらうための方策を児玉参考人に伺いたい。

柿澤 未 途君(みんな)

- ・長瀧参考人が首相官邸に設置されている原子力災害専門家グループからのコメントとして連名で発表した「チェルノブイリ事故との比較」について、「福島周辺の住民の現在の被ばく線量は 20 ミリシーベルト以下になってい

るので、放射線の影響は起こらない」という見解は現在も変わっていないか。

- ・食品の放射性物質の基準値について、日本の現行の基準値とウクライナが採用している基準値のどちらが妥当であるか今中参考人及び唐木参考人に伺いたい。
- ・細野豪志国務大臣（原発事故の収束及び再発防止担当）の「福島第一原子力発電所の廃炉が完了する前でも先行して帰宅することが可能」との趣旨の発言に対して、高濃度の汚染地域が広く存在している状態で避難区域を解除することが正当と考えられるか児玉参考人の見解を伺いたい。